

第134回 卒業式

塩は溶けて

いま卒業証書を授与された皆さんは六年前の四月、新型コロナウイルスの影響で、まだお互いの顔も知らないオンライン生活から始まりました。そして五月、ひと月遅れの入学式を迎え、何もかも自粛、延期、中止の一年でした。でも中学三年のスタディーツアーが京都奈良で再開したのも、高校二年の海外スタディーツアーがオーストラリアになりましたが、再開した初めての学年となりました。

六年前の入学試験の面接の時から、特に昨年の三月の担任交代発表で大泣きされ、春休みの修養会からの一年は、皆さんと共に祈り、共に学び、授業の皆さんのふり返りを読み、受験に向って成長していく皆さんを見守り、本当にドラマチックな学年でした。忘れられ

ない一年となりました。よくここまで辿り着きました。卒業おめでとう。

遅くなりましたが、本日ご臨席のご家族の皆様、お嬢様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

また本日は石井博文理事長、同窓会森田拓子会長始めご来賓の皆様をお迎えしています。後ほどご紹介申し上げます。

さて、卒業にあたり、神様から皆さんへ与えられた御言葉は「地の塩、世の光」でした。

まず、このわずか四節の間に「あなたがた」が五回も繰り返されています。実は、これは同じマタイによる福音書の五章から七章までにある山上の説教の冒頭の「幸いなるもの」に続く箇所です。

つまり「あなたがた」とはイエスの話を聞いている弟子たち、群衆は幸いだと言っているのです。それはこの六年間、三年間、毎朝、聖書の御言葉を聞いて無意識に心に記されて

きた皆さんもまた祝福されているという意味です。

そして「あなたがたは地の塩である」「あなたがたは世の光である」と「である」と言い切っているのも、あなたが自由に感じ、思い、考えると同時に、すでに神様はあなたを選び、これからも、どんな時にも共におられると約束していることを意味しています。

「地の塩」の「地」というのは大地、世界です。そして「塩」はそもそも神殿で神様に献げられる供え物と共に用意されていました。腐敗を防ぐ塩は神様との永遠の交わりを象徴していました。また古来「塩」は他人を迎える、歓迎する、深い親しみ、交わりの象徴です。現代でもスラブ民族ではお客様をパンと塩で迎えるそうです。よく考えると、私たちが熱々の白米にちょっとのお塩の塩おにぎりはご馳走です。焼きたての塩パンも一番人気です。塩は古来命の源、互いをつなぎ、交わりを祝福する大切なものなのです。

ですからイエスの言葉を聞いたあなたがた

は、あなたがた自身だけでなく、この世にとってなくてはならない、貴重なつなぎ役、交わりの象徴なのです。

しかし、一つ気をつけてほしいことがあります。それは「塩気がなくなる」ということです。どういうことでしょうか。まずイエスの御言葉を聞くというのはただ理解するだけでなく、御言葉を生きることです。

ですから今日の箇所ofのすぐ前には「私のために、人々があなたがたを罵り、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いである」とあるように、御言葉に生かされることはこの世の価値観に合わず、理解されず、拒否されることもあるということです。

しかし山上の説教の最後には「そこで、私のこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に家を建てた賢い人に似ている」とあります。固い岩は御言葉を生きる困難さを意味しますが、岩の上に建てた家は雨や風のような試練

が襲っても流されないと言っているのです。
御言葉を生きるとはそこに真価あるのです。

皆さん自身は全国の高校生の約十パーセントのキリスト教学校の生徒です。聖書の御言葉を知らない残りの九十パーセントの高校生と共に次のステージで学び、共に生きていきます。ひょっとしたらキリスト教、聖書への誤解や偏見に遭うかもしれません。英和では感じたことのない違和感、戸惑いも感じるかもしれません。あれだけ心に記された隣人愛が他人との競争で揺らぐこともあるかもしれません。それが「塩気がなくなる」ということです。塩気がなくなるとは結晶になって固まって、溶けなくなった役に立たない塩のことです。隣人愛がお題目になり、お守りのようになることです。

でも発酵したパン生地に塩が溶け込んで、こんがり焼けたパン、熱々炊き立ての白米にほんの少しの塩が甘い、甘いおにぎりに、そしてスイートポテトも、おぜんざいも少しの

塩が甘さを増してくれるように、塩は素材に溶け込んで消えても、その素材のハーモニーを、平和を、平安を演出して、だれもが「うまい」と叫びたくなるのです。

塩だけではお互いの正しさを主張し合い、反発が起きて争いになるでしょう。あなたがたが聞いてきた御言葉は、これからまだ聞いたことのない人々の中に溶け込み消えても、あなた自身にとっての幸いにもなると信じて下さい。あなたがたが英和で聞いた御言葉の真価はこれからです。どうか御言葉がどんなに素晴らしいものか、これからのステージでも実感してください。

そして塩気を失うか、塩気が溶け込んでいくのかは、これからの皆さんの人生で何度でも、何度でも確かめられます。そして何度でも、主があなたを愛していることに気づく時が与えられます。生涯、心に記された御言葉があなたと共にあり、あなたを守り、あなたを導きますように。（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、いま旅立つ者に喜びと祈り、感謝の幸いを与えてください。主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

二〇二六年三月二日
静岡英和女学院高等学校
校長 大橋 邦一